

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		岡崎女子大学(学部・学科等の課程)		設置者名	学校法人 清光学園					
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況(令和2年度)				
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数	
							実数	個別		
子ども教育学部	子ども教育学科	平成25年度	100人	幼稚園教諭一種	平成25年度	86人	85人	84人	23人	
				小学校教諭一種	平成29年度			21人		
入学定員合計			100人	合計		86人	85人	105人	23人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、令和3年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。									

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：令和3年12月14日（火曜日）

実地視察大学：岡崎女子大学

【全般的事項】

- 全般的に教員組織、教育課程について充実しており、教職課程認定基準等の観点からは是正すべき点を確認されたものの、先導的なモデルになり得る積極的な取組も見られた。引き続き教員養成の水準の維持・向上に努められたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 教員養成に対する理念・構想を具現化するための教職課程に対する全学的な組織、教育課程及び教員組織をより一層充実させるように努めていただきたい。
- 教務委員会、実習委員会を設置し、教職課程を置く学部学科と事務組織の教務課と連携しながら教職課程の運用を行っている点は評価できる。今後も令和4年度設置予定の教職課程委員会を中心とし、一層充実させるように努めていただきたい。

2. 教育課程（教科及び教職に関する科目）、履修方法及びシラバスの状況

- 子ども教育学科（幼稚園教諭課程、小学校教諭課程）は、教職課程認定基準2（6）に定める「教員養成を主たる目的」とする学科等であることが前提である。当該学科等は教職課程認定審査の確認事項1（4）③に定めるとおり、卒業要件において幼稚園又は小学校の免許状取得に係る科目が相当程度、必修として位置付けられていることが必要である。
しかしながら、学則等において、子ども教育学科の大半の科目が、選択科目として位置付けられていることが確認された。今後、「教員養成を主たる目的」とする学科等として、卒業要件における幼稚園及び小学校の免許状取得に係る科目の履修の位置付けを見直すこと。
- 「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」の授業科目において、「模擬保育」について、事項の趣旨に照らして十分な内容を取り扱っていることが確認できないシラバスが見られた。教職課程コアカリキュラムを参照の上、施行規則に定める事項の趣旨に照らして適切な授業内容及び表記となるよう、再度検討すること。
- 「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」の授業科目において、「情報通信技術の活用」について、事項の趣旨に照らして十分な内容を取り扱っていることが確認できないシラバスが散見された。教職課程コアカリキュラムを参照の上、施行規則に定める事項の趣旨に照らして適切な授業内容及び表記となるよう、再度検討すること。
- 「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」の授業科目において、「学校安全への対応」について、事項の趣旨に照らして十分な内容を取り扱っていることが確認できないシラバスが見られ

た。教職課程コアカリキュラムを参照の上、施行規則に定める事項の趣旨に照らして適切な授業内容及び表記となるよう、再度検討すること。

- 「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」の授業科目において、「自立活動」について、事項の趣旨に照らして十分な内容を取り扱っていることが確認できないシラバスが見られた。教職課程コアカリキュラムを参照の上、施行規則に定める事項の趣旨に照らして適切な授業内容及び表記となるよう、再度検討すること。

3. 教育実習の取組状況

- 教育委員会と連携し、ほぼ全ての教育実習先（母校実習の場合も含む。）に担当指導教員が訪問指導を行うなど、丁寧な教育実習指導が行われている点は評価できる。引き続き、地元教育委員会・学校と連携を進め、訪問指導を含め、適切な教育実習指導に努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 定期的にガイダンスを行い、教職を目指す全学生に対して教職員が一体となって教職指導を行っている点は評価できる。現状、学生からみて教職指導の案内がわかりづらいように思われるため、今後、改善に努めていただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 大学と教育実習受入校とによる教育実習懇談会を設定し、学生のよりよい学びに向けて協議を行っている状況が確認できた。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 教職関連図書・雑誌については、おおむね整備されている。教職を志す学生が、教育に関する最新の情報を入手することができるように、引き続き図書環境の充実に努めていただきたい。
- 教職課程の科目に係る基本的な施設について、整備・充実している状況が確認された。引き続き、今後の教育方法の更なる充実のため、ICT環境等の整備充実に計画的に取り組んでいただきたい。

7. その他特記事項

- 1年次の授業科目において、ボランティアとして教育現場（幼稚園、小学校等）を体験する機会を設けている点は評価できる。
- 1年次の授業科目において、教師としてひとりの子どもとの接し方や集団を前にした時の対応、保護者との対話などを実践形式で学ぶ授業が開設されている点は評価できる。
- 4年次の授業科目において、教育実習とは別科目で学校現場における長期実習を実施できるようにしており、多くの学生が参加している点は評価できる。

- インクルーシブ教育について、一定の科目を習得した場合に「インクルーシブ教育士」（大学内認定資格）を取得できるなど、充実した取組が行われている点は評価できる。